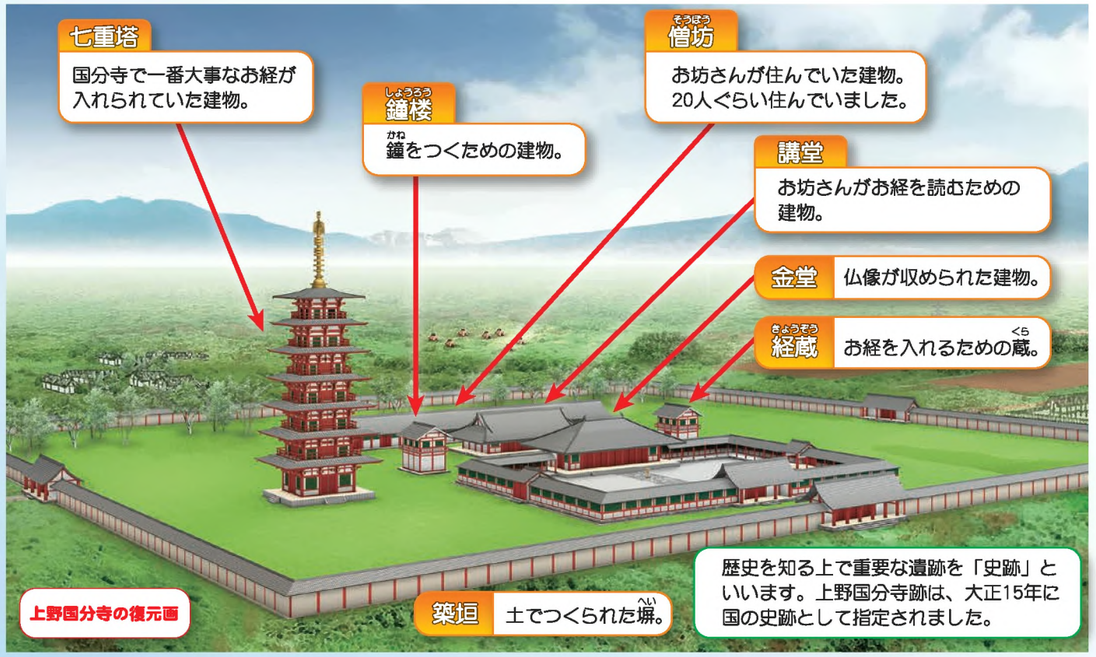
史跡 上野国分寺跡

上野国分寺跡は前橋市と高崎市の間にある、お寺の遺跡です。今から約1,300年前の奈良時代、病気の流行などの大きな災いが、多くの人を苦しめました。聖武天皇は仏様に人々を守ってもらうために各国（今の県のようなもの）に国分寺を建てさせました。

国分寺には七重塔や金堂、講堂などが建てられ、周りは築垣で囲まれていました。七重塔は約６０ｍの高さ（だいたいビル１５階分）があったようです。立派な建物がある国分寺は「国の華」であり、聖武天皇は国分寺を末永く大切にし、仏様にお祈りするよう人々に命じました。

※奈良時代、今の群馬県は「上野国」と呼ばれていました。

※国分寺のすぐ近くには、女性のお坊さん（尼）が住むお寺（国分尼寺）も建てられました。



歴史を知る上で重要な遺跡を「史跡」といいます。上野国分寺跡は、大正15年に国の史跡として指定されました。

史跡上野国分寺跡の周辺地図

上野国分寺の周りには、大きな古墳群（保渡田古墳群・総社古墳群）や豪族の館の跡（三ツ寺Ⅰ遺跡・北谷遺跡）など、古墳時代の重要な遺跡のほか、古代の国の役所（上野国府）や大きな寺社（山王廃寺跡・総社神社）があります。この地域は古墳時代以来、上野国の政治・文化の中心地でした。

保渡田古墳群や総社古墳群、山王廃寺跡のことは、かみつけの里博物館（高崎市）や総社歴史資料館（前橋市）で詳しく知ることができます。

群馬県公式You Tubeチャンネル「Tsulunos（ツルノス）」で上野国分寺跡の紹介もしています。
ＱＲコードからぜひご覧ください。
「群馬の文化財２ 史跡上野国分寺跡ーぐんまの華を見に行こうー」
ＵＲＬ：https://www.youtube.com/watch?v=tN0o1tZ6YWE

ＱＲコード

令和３年１１月１７日 群馬県地域創生部文化財保護課 発行

上野国分寺跡の中を歩いてみよう！

ポイント3

復元された七重塔の基壇

七重塔の基礎部分です。建物の中心の柱を支える石（心礎）とその他の柱の土台となる石（礎石）を見ることができます。基壇の外側の石には群馬県でよく取れる安山岩が使われています。

↑復元された基壇

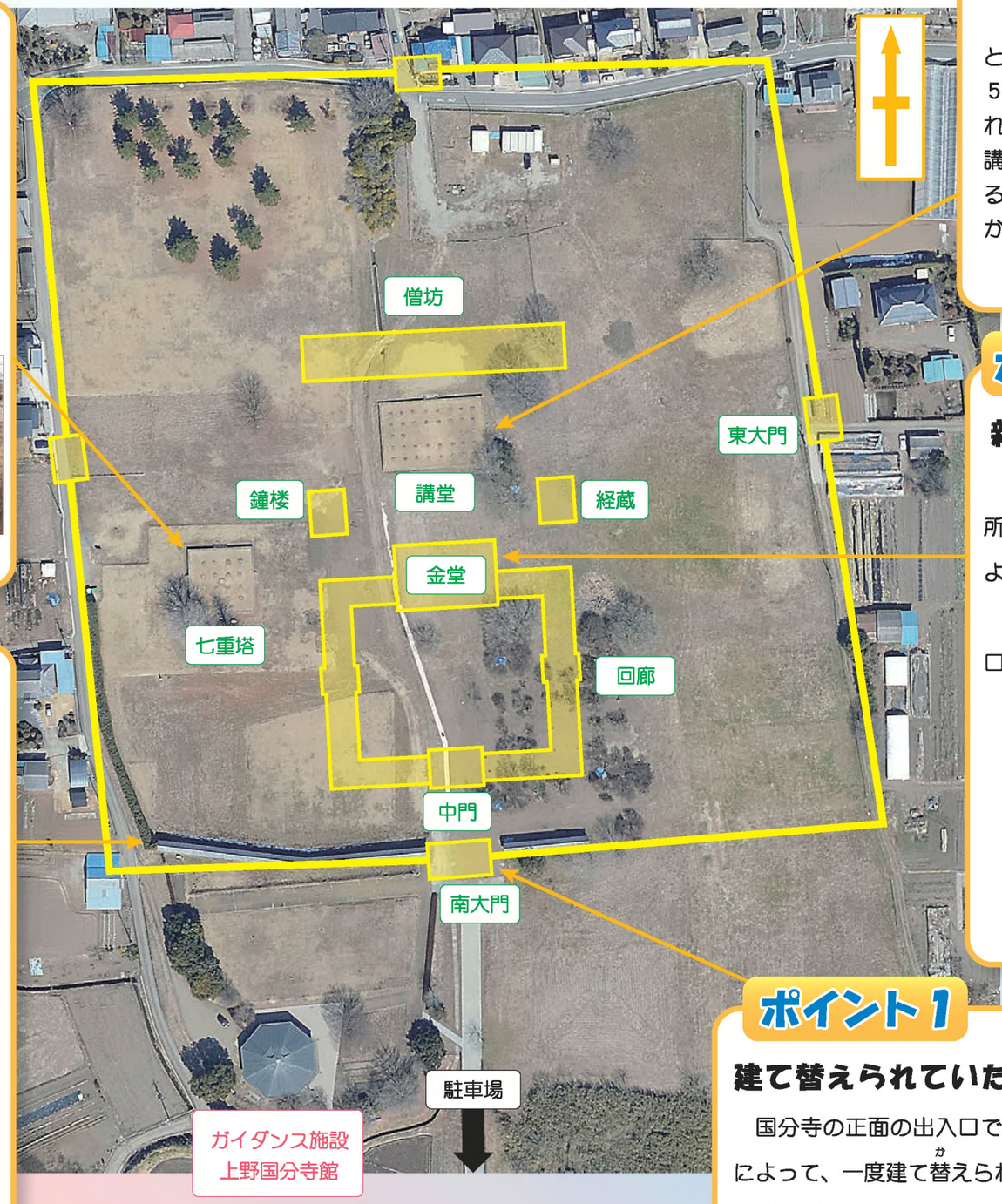
↑復元される前の状態

ポイント2

1,300年前の方法で復元された築垣

木の棒を使い、土を突き固めて造りました（版築工法）。築垣を近くで見ると、突き固めた跡が縞状にあることがわかります。1㎡あたり4ｔの重さがあります。

築垣の断面イメージ



ポイント4

金堂として復元された講堂の基壇

８個の礎石が残っていました。最初は金堂だと思われていましたが、本当の金堂（ポイント５）が発見されたことで、講堂跡であることがわかりました。

ポイント5

新しく発見された金堂の跡

建物が沈まないようにするために、建てる場所を一度掘った後、新しい土を詰めて堅くなるように叩いていたことがわかりました。

金堂の南側では周囲を取り囲む回廊と出入口の中門も見つかりました。

黄色い破線の内側が掘り込まれた跡

ポイント1

建て替えられていた南大門

国分寺の正面の出入口です。発掘調査によって、一度建て替えられたことがわかりました。